

○計画期間:令和2年7月～令和8年3月(5年9月)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和6年度終了時点(令和7年3月31日時点)の中心市街地の概況

令和2年7月からスタートした第3期基本計画は、基本理念を『飯田美しき町』魅力的な丘のまちの形成」とし、「美しい丘のまちのデザインづくり」「丘のまちの居場所・交流空間づくり」「丘のまちの快適な暮らし創造」「丘のまちの新たな価値創造」の4つの目標を掲げ、各事業を展開している。

各事業は概ね順調に進捗しており、概況は以下に整理のとおり。

旧ピアゴ他駅周辺低・未利用地活用整備事業により移転した飯田市公民館では、貸館利用だけでなく、誰でも自由に利用できるフリースペース設置により、移転以降の施設利用者は昨年度に引き続き2倍以上に増加し、中心市街地の新たな交流拠点として効果が発現している。

子育て支援や親子の居場所づくりについては、トップヒルズ本町2階のゆいきっず広場への遊具設置、周辺飲食店と連携した出張図書館、夜の動物園を楽しむナイトツアー等の既存施設を活用した新たな魅力づくりにより、都市福利及び文化・交流の主な公共施設利用者数は目標数値を上回っている。

また、空き店舗活用については、これまでの改修補助に加え家賃補助を拡充したことで、起業による空き家活用が促進され、目標数値の新規出店数を上回る実績につながっている。

施設利用者数から来街者の増加傾向は確認できるが、歩行者・自転車通行量調査では天候による影響もあり、基準値（平成30年）対比で約37%減少、前年度対比で約15%減少している。過去の調査結果から、施設利用者数の増加と通行量の増加は比例しておらず、特定の施設利用目的で訪れている利用者を、いかに街中へ誘導するかが課題となっている。

このような状況を踏まえ、りんご並木を「憩い集えるステージ」とするための社会実験を令和6年度に実施した。道路への車両進入を規制しオープンテラス等で活用する空間づくりに取り組んだ結果、50%以上の通行人の増加につながるなど、集客イベントでなく、日常的に憩い集える空間設置だけでも一定の効果発現を確認することができた。

また、動物園来園者の街中誘導施策として、動物園を出発点とした、りんご並木をアルパカ等と散歩する「動物さんぽ」や、案内人と市街地を歩く「まちなかガイド」等にも取り組んだが、動物園目的で来園する人を誘導することは難しく課題として残った。市民アンケート結果では、ニーズに沿った目的地不足との回答が多いことから、地域住民及び沿線店舗が中心となり引き続き事業展開を検討していくことを確認している。

今後は、特定の施設利用目的で訪れる利用者が街中へ誘導される仕掛けや魅力づくりを関係者間で検討し、ウォーカブルなまちづくりを目指す。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(基準日：毎年度1月1日)

(中心市街地 区域)	平成30年度 (計画前年度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)	令和7年度 (6年目)
人口	8,660	8,365	8,217	8,062	7,950	7,764	
人口増減数		-295	-148	-155	-112	-186	
自然増減数		-220	-106	-134	-123	-131	
社会増減数		-69	-40	-21	11	-55	
転入者数		480	262	243	264	247	

2. 令和6年度 of 取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

・本計画は策定から5年が経過し計画に対しては、ほとんどの事業が着手され目標に向かい進んでいる。中心市街地へ来街する人は公共施設を中心に基準数値を上回る施設利用者数となっており、コロナ禍から順調に回復していると推察される。

・飯田市公民館では、旧施設には無かった新たな機能・利用形態を提供したことで移転前と比較し2倍以上の利用者数増加につながり、本計画の課題として挙げられている「第3の居場所づくり」(自宅でも職場でも学校でもない居心地の良い場所)として、引き続き活発な活動が促進されるよう期待したい。一方、ホール機能としては不十分であり、当地域に根付く文化・芸術活動の低下やホール機能により見込めた市内外からの人流の減少が課題として挙げられる。そのため、検討が続いている文化会館についても、設置場所により大きな影響や効果がもたらされることが想定される。ホール機能は今後の中心市街地活性化に必要な機能であることから、早急に検討結果をまとめ中心市街地内への整備をお願いしたい。

・施設利用者数では、公共施設を中心に基準数値を上回り、中心市街地に来街する人は増加傾向にあるが、中心市街地内への人流につながっていない。これまで取り組んできた歩行者天国事業等の各種イベントに加えて、中心市街地を訪ねる魅力、目的地となる事業を関係者と連携し進めていく。

・支援制度の拡充もあり、空き家等の活用が推進されていることは評価できるが、中心市街地の人口減少を踏まえると、空き家等が更に増加していくことが懸念される。サテライトオフィスや新たな働き方に対応した居住、社会インフラ等の再構築を再開発事業含め対応していく。

・リニア中央新幹線開業は大幅な延期が公表されたことから、現在進めているリニア駅周辺整備の必要性和市全域の公共投資について見直し、10年先を見据えた公共事業計画の再検討が必要と考える。中心市街地については、リニア駅開業後も当市の中心拠点とすることを確認していることから、新時代に向けて飯田市及び飯田下伊那のポテンシャルを高めるため、魅力形成に向けた取組を推進していく。

・近未来に向けて、魅力ある中心市街地を創造するため「中心市街地活性化基本計画」は重要な計画に位置付いている。計画期間も残り1年となるため、今後の中心市街地のあり方について積極的に検討を進めていく。

Ⅱ. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況※1	目標達成に関する見通し※2	
						前回の見通し	今回の見通し
美しい丘のまちのデザインづくり	歩行者・自転車通行量 (休日)	9,475 人/日 (H30)	10,400 人/日 (R7)	5,950 人/日	C	C	C
丘のまちの居場所・交流空間づくり	都市福祉施設利用者数 (年間)	209,214 人/年 (H30)	214,800 人/年 (R7)	288,483 人/年	A	A	A
丘のまちの快適な暮らし創造	新規出店数 (年間)	3 店舗/年 (H20～H30の平均)	5 店舗/年 (R2.7～R8.3の平均)	5 店舗/年	A	A	A
丘のまちの新たな価値創造	文化・交流施設利用者数 (年間)	284,094 人/年 (H30)	299,600 人/年 (R7)	309,083 人/年	A	A	A

< 基準値からの改善状況 (※1) >

最新値が基準値や目標値と比較してどうであるかで判断

A : 目標達成、B : 基準値より改善、C : 基準値に及ばない

< 目標達成に関する見通しの分類 (※2) >

計画終了時の数値が、基準値や目標値と比較してどのような見通しかで判断

A : 目標達成が見込まれる

B : 目標達成が見込まれないが基準値を上回ることが見込まれる

C : 目標達成及び基準値を上回ることが見込まれない

※「< 基準値からの改善状況 (※1) >」、< 目標達成に関する見通しの分類 (※2) >ともに、関連する事業等の進捗状況が順調でない場合は、英字を小文字にして下線を引いて下さい。(例：a、b、c)

2. 目標達成見通しの理由

「歩行者・自転車通行量」は、今年度の調査日が雨天だったこともあり、調査地点全てで昨年度を下回る結果となった。基準値対比で約 37%減少、前年度対比で約 15%減少している。一方で、歩行者・自転車通行量の増加に向けた各事業については概ね予定どおり完了した。主な公共施設で基準値、目標値を上回る利用者数となっていることから中心市街地を訪れる人は増加傾向にあると考えられる。また、空き家・空き店舗の活用についても起業等の相談件数は年々増加傾向にあり、春草通り活用事業、ライフスタイルの低炭素化事業、丘のまち回遊促進事業でも、ソフト事業として新しい取り組みにチャレンジしていることから、歩行者・自転車の通行量には反映されていないが、事業効果として中心市街地の賑わいに寄与していると考えられる。また、令和5年度から関係者と協議を重ね、りんご並木を「憩い集えるステージ」とするための社会実験を令和6年度実施した。主な実験内容としては、車両を規制し道路をオープンテラスにする空間づ

くりに取り組み、飯田動物園来園者の街中誘導にも取り組んだが、動物園目的で来ている人を誘導することは困難であったことから、来街者のニーズに沿った目的地づくりが必要との結論となり、引き続き事業展開を検討することとなった。今後は、特定の施設目的で訪れている利用者が街中へ誘導される仕掛けや魅力づくりを関係者間で検討し、ウォークラブルなまちづくりを推進し歩行者等の通行量増加を目指す。

「都市福利施設利用者数」は、基準値対比で約 36%増加し目標値対比でも約 28%上回っている。基準値及び目標値を上回っている大きな要因は飯田市公民館の施設移転である。旧飯田市公民館は施設老朽化のため、旧ピアゴ他駅周辺低・未利用地活用整備事業により、令和 4 年 5 月に駅前的大型商業施設を改修し移転した。改修の際は、以前より需要が高かった「幅広い世代が集いやすい交流拠点づくり」を実現するため、貸館としての公民館機能だけでなく、大規模なフリースペースも改修と併せて整備した結果、基準値対比で 103%の利用者数増加につながっている。他にも、子育て支援、多世代交流の効果を高めるために実施しているゆいきっず広場では、施設内に体を動かして楽しむ遊具を設置するなど、親子の居場所づくりとしての取り組みを進めていることもあり、基準値対比で約 100%増加につながっている。また、同建物内の橋南公民館利用者也基準値対比で約 140%増加していることから、幅広い世代が交流する地域の拠り所としての効果が発現した結果と考えられ、目標達成可能と見込まれる。一方で民間の福祉施設では事業閉鎖やサービス機能の縮小が見られることから、新たな事業者の誘致やテナントの有効活用を検討する。

「新規出店数」は 5 件（店舗 5 件、民家 0 件）であった。基準値対比で 2 店舗増加し、計画期間中の平均値は令和 6 年度現在で 7.2 店舗/年の出店につながっていることから目標値も上回っている。まちなか起業推進事業は目標値 2 店舗/年に対して令和 6 年度現在で平均値 3.2 店舗/年、地区空き家バンク連携事業と空き家・空き店舗活用事業は目標値 3 店舗/年に対して令和 6 年度現在で平均値 4 店舗/年となっている。支援制度の拡充等が結果に結びついていることから目標達成可能と見込まれる。空き家等については、店舗としての再利用が進む一方で、民家として再利用される件数が少ないため、支援制度の周知及びまちなか居住の魅力発信に取り組む必要がある。また、今後も想定される物価高や光熱水費等の経常経費の増加等による新規出店へのマイナス材料がどのように影響してくるか、見極めたうえで必要な対策を講じていく。

「文化・交流施設利用者数」は、基準値対比で約 9%増加、目標値対比では約 4 %上回っている。また対象施設の内、旧飯田測候所を除くすべての事業が目標値を上回る施設利用となっている。順調な利用者数につながっている要因としては、各対象施設での普及・啓発活動に加えて、新たな施設利用の提案によるものと考えられる。周辺飲食店と連携した出張図書館や動物園でのナイト ZOO 等により更に効果が生まれていることから、引き続き取り組むことで目標達成可能と見込まれる。一方で、川本喜八郎人形美術館は基準値を大きく下回っている。コロナ禍以降、人の流れは戻ってきているが、遠方からの団体観光客の回復までには至っていない。市外への情報発信を強化することに加えて、市民や個人観光者等への誘客促進を更に強化するとともに、施設同士の連携した事業を行うことで相乗効果を図りたい。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

「歩行者・自転車通行量」

前回から変更はない。

「都市福利施設利用者数」

前回から変更はない。

「新規出店数」

前回から変更はない。

「文化・交流施設利用者数」

前回から変更はない。

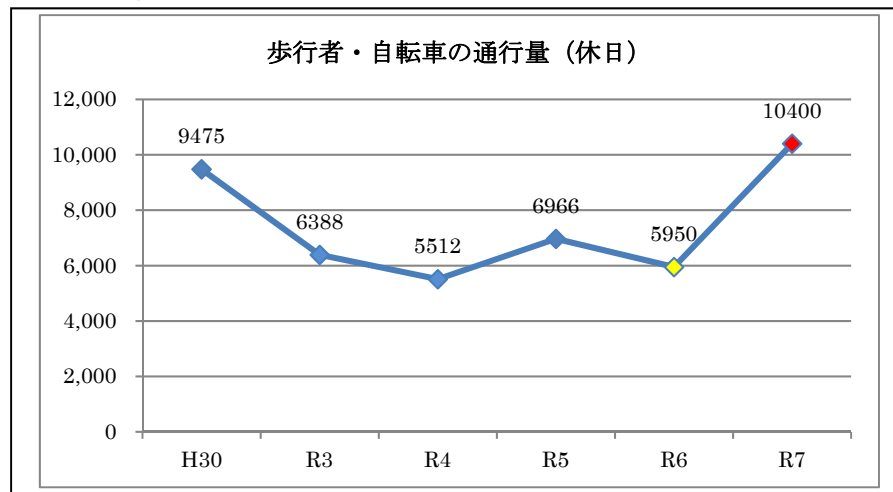
4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

◆美しい丘のまちのデザインづくり

目標指標：歩行者・自転車通行量（休日）

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 109～P. 111 参照

●調査結果と分析：歩行者・自転車通行量（休日）



年	(単位：人/日)
H30	9,475 (基準値)
R2	
R3	6,388
R4	5,512
R5	6,966
R6	5,950
R7	10,400 (目標値)

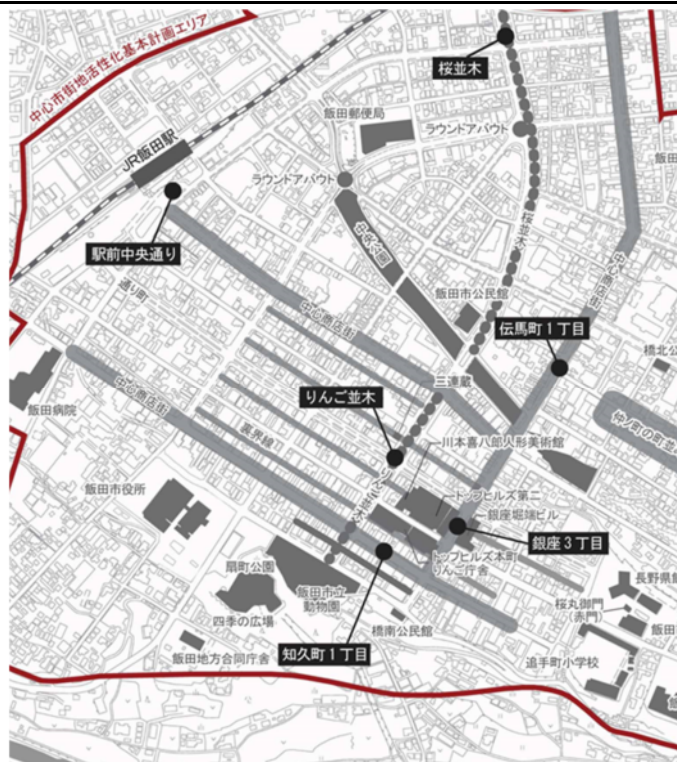
※調査方法：計画地点での調査員による通行量調査

※調査月：令和6年10月

※調査主体：飯田市

※調査対象：歩行者及び自転車 土曜日6地点

(駅前・中央通り、りんご並木、知久町1丁目、銀座3丁目、
伝馬町1丁目、桜並木)



(単位：人/日)

	平成 30 年度 (計画前年度)	令和 2 年度 (1 年目)	令和 3 年度 (2 年目)	令和 4 年度 (3 年目)	令和 5 年度 (4 年目)	令和 6 年度 (5 年目)	令和 7 年度 (6 年目)
駅前・中央通り	3,316		2,212	2,286	3,286	2,876	
りんご並木	1,774		1,246	686	900	874	
知久町 1 丁目	744		390	378	360	340	
銀座 3 丁目	2,734		1,534	1,310	1,352	1,246	
伝馬町 1 丁目	640		564	448	530	276	
桜並木	267		442	404	538	338	
合計	9,475		6,388	5,512	6,966	5,950	

〈分析内容〉

調査当日が雨天だったこともあり、調査地点全てで昨年度を下回る結果となった。基準値対比で約 37%減少、前年度対比で約 15%減少した。前年度対比で特に減少率の高い調査地点は伝馬町 1 丁目約 48%減少、桜並木が約 37%の減少となった。一方で、歩行者・自転車通行量の増加に向けた各事業については概ね予定どおり完了した。後述する旧ピアゴ商業施設等整備事業により、移転した飯田市公民館の施設利用者は、移転前と比較し 103%の増加につながっている。他にも主な公共施設で基準値を上回る利用者数となっていることから中心市街地を訪れる人は増加傾向にあると考えられる。また、空き家・空き店舗の活用についても起業等の相談件数は年々増加傾向にあり、春草通り活用事業、ライフスタイルの低炭素化事業、丘のまち回遊促進事業でも、ソフト事業として新しい取り組みにチャレンジしていることから、歩行者・自転車の通行量には反映されていないが、事業効果として中心市街地の賑わいに寄与していると考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

(1) 市街地の整備事業による効果

①. 桜並木整備事業

(飯田市、まちづくり委員会)

事業実施期間	平成 22 年度～令和 7 年度 【実施中】
事業概要	市民や来街者がゆっくり歩いて鑑賞でき、四季を通じて楽しめる空間として桜並木を整備することで、滞留と回遊の創出を図る
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集集中支援事業 令和 6 年度～令和 7 年度
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：391 人/日 最新値：338 人/日（目標未達成） 調査地点：桜並木 進捗状況：調査当日が雨天だったことから目標値を約 13% 下回る結果となった。事業予定箇所内のラウンドアバウトを、景観含めより歩きやすい環境となるよう整備した。令和 6 年度から周辺道路の整備に着工している。
事業の今後について	継続的に桜並木を守っていくためには衰退が見られる桜の樹の適正な更新が必要であることから、関係者で検討を重ね令和 6 年度に「桜の更新計画」を策定した。当該通りは、市内の桜の名所にもなっていることから、計画的に管理し、安全に楽しんで歩いてもらえるよう今後も取り組んでいく。

(2) 商業施設整備による効果

①. 旧ピアゴ他駅周辺低・未利用地活用整備事業

(飯田市、飯田市中心市街地活性化協会、㈱飯田まちづくりカンパニー、飯田駅前プラザ㈱)

事業実施期間	令和 2 年度～令和 7 年度 【実施中】
事業概要	リニア中央新幹線の開通を見据え、広域交通拠点と中心拠点及び鉄道・バス等の交通結節点となる、旧ピアゴ等を含む飯田駅周辺の低・未利用地について、教育文化施設や賑わい空間施設等の活用整備を官民連携で行うことにより、新たな魅力拠点の創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業（飯田市中心市街地地区）） 令和 3 年度～令和 7 年度
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値： 3,569 人/日 最新値： 2,876 人/日（目標未達成） 調査地点：駅前中央通り 進捗状況：調査地点は交通結節点のため、市内外からの多くの人流を見込める地点だが、調査当日が雨天だったこともあり目標値を約 19% 下回る結果となった。事業効果は、これまで貸館の利用者が中

	心であった市公民館が、どなたでも立ち寄り利用できるフリースペースを整備したことにより、現在は貸館利用者のみならず、中心市街地の居場所の一つとして年間約 15 万人の施設利用につながっていることから、期待された効果は発現していると考えられる。
事業の今後について	令和 4 年 5 月に建物改修を終え「丘の上結いスクエア」として竣工した。施設内に移転した市公民館では貸館施設と、予約なしで誰でも利用できるフリースペース施設を設置したことにより、旧市公民館と比較し利用者数は大幅に増加している。フリースペースの利用促進が施設全体の利用者数増加につながることから、各種団体による書道や絵画等の美術展、飯田下伊那の小中学校の各種展示、天候に左右されない強みを活かしたイベント等をフリースペースで展開し交流人口の拡大を図る。
②旧ピアゴ商業施設等整備事業 (吉川建設株、商店街ほか)	
事業実施期間	令和 2 年度～令和 7 年度 【実施中】
事業概要	平成 30 年 9 月末に閉店した飯田駅前大型商業施設「旧ピアゴ」を、内外の観光客等のニーズに対応する複合商業施設へと商店街や民間事業者が一体となり整備することで、域外等から新たな需要を取り込み消費の喚起に繋げる。
国の支援措置名及び支援期間	商店街活性化・観光消費創出事業 令和 2 年 7 月～令和 8 年 3 月
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値： 3,569 人/日 最新値： 2,876 人/日（目標未達成） 調査地点：駅前中央通り 進捗状況：調査地点は交通結節点のため、市内外からの多くの人流を見込める地点だが、調査当日が雨天だったこともあり目標値を約 19% 下回る結果となった。事業効果は、これまで貸館の利用者が中心であった市公民館が、どなたでも立ち寄り利用できるフリースペースを整備したことにより、現在は貸館利用者のみならず、中心市街地の居場所の一つとして年間約 15 万人の施設利用につながっていることから、期待された効果は発現していると考えられる。
事業の今後について	令和 4 年 5 月に建物改修を終え「丘の上結いスクエア」として竣工した。施設内に移転した市公民館では貸館施設と、予約なしで誰でも利用できるフリースペース施設を設置したことにより、旧市公民館と比較し利用者数は大幅に増加している。フリースペースの利用促進が施設全体の利用者数増加につながることから、各種団体による書道や絵画等の美術展、飯田下伊那の小中学校の各種展示、天候に左右されない強みを活かしたイベント等をフリースペースで展開し交流人口の拡大を図る。

(3) 都市福利施設利用者数増加による効果

①健康福祉拠点活用事業

((社医) 栗山会、カーブス(株)なみき)

事業実施期間	平成 26 年度～令和 7 年度 【実施中】
事業概要	高齢化が進む中心市街地において、市民の健康寿命延伸のため、銀座堀端ビル等を拠点として、地域に居住する高齢者の生活支援施策、地域住民の健康支援事業、地域住民の健康・福祉データバンク機能、子育て支援のため整備した拠点を活用することで、まちなか居住者の健康増進と交流の機会の増加を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値： 5,915 人/日 最新値： 2,736 人/日（目標未達成） 調査地点：りんご並木、知久町 1 丁目、銀座 3 丁目、伝馬町 1 丁目 進捗状況：調査当日が雨天だったことから目標値を約 54% 下回る結果となった。調査地点前の銀座堀端ビルでは、デイサービス機能の移転、提供している健康福祉サービス利用者もコロナ禍で減少し、回復までには至っていない。
事業の今後について	周辺施設のトップヒルズ本町では令和 4 年度に商業施設のなみきマーケットが開店、橋南公民館も移転してきている。また、同建物 2 階にはゆいぎっず広場もあり、幅広い世代の交流の場として施設は利用されており、コロナ禍前と比較しても利用者は増加していることから、積極的な事業 PR 等により賑わい創出を図る。

②子育て世代包括支援事業

(飯田市)

事業実施期間	令和 2 年度～令和 7 年度 【実施中】
事業概要	中心市街地において、子育て世代にとって住みやすい環境づくりが求められており、子育て支援や親子の居場所づくりを行うことにより、来街者の利便性向上や居住人口の増大を図る
国の支援措置名及び支援期間	子ども家庭応援センター事業 令和 2 年度～令和 7 年度
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値： 5,915 人/日 最新値： 2,736/日（目標未達成） 調査地点：りんご並木、知久町 1 丁目、銀座 3 丁目、伝馬町 1 丁目 進捗状況：調査当日が雨天だったことから目標値を約 54% 下回る結果となった。トップヒルズ本町 2 階では、本事業として実施しているゆいぎっず広場を活用しつつ、体を動かして楽しむ遊具を設置するなど、親子の居場所づくりとしての取り組みを進めていることもあり、施設利用者は基準値対比で約 100% 増加につながっていることから、子育て支援の需要への対応、親子の居場所づくりとし

	ての効果は発現していると考えられる。
事業の今後について	令和6年4月から新設した飯田市こども課をトップヒルズ本町2階に配して、こども相談・子育て相談・発達支援の強化により子ども家庭総合支援拠点機能を充実するとともに、こども・若者・親子の居場所づくりを推進する。
③多世代交流拠点事業 (まちづくり委員会、NP0 法人おしゃべりサラダ、飯田市)	
事業実施期間	令和2年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	子育て世代・高齢者等の支援とイベント等の情報交流の場と機会づくりを通じて、誰もが気軽に集える第3の居場所づくりを行い、まちなかの賑わい創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	地域子育て支援拠点事業 令和2年7月～令和8年3月 中心市街地活性化ソフト事業 令和2年7月～令和8年3月
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値： 5,915 人/日 最新値： 2,736 人/日（目標未達成） 調査地点：りんご並木、知久町1丁目、銀座3丁目、伝馬町1丁目 進捗状況：調査当日が雨天だったことから目標値を約 54%下回る結果となった。トップヒルズ本町2階では、本事業として実施しているゆいきっす広場を活用しつつ、体を動かして楽しむ遊具を設置するなど、親子の居場所づくりとしての取り組みを進めていることもあり、施設利用者は基準値対比で約 100%増加につながっている。また、同建物内の橋南公民館利用者も基準値対比で約 140%増加となっていることから、幅広い世代が交流する地域の拠り所としての効果は発現していると考えられる。
事業の今後について	トップヒルズ本町では令和4年度に商業施設のなみきマーケットが開店、橋南公民館も移転している。また、同建物の2階に配置している乳幼児親子の交流施設ゆいきっす広場を活用しつつ、新たに小学生向けの遊具や、利用者の声や要望を自由に記載する掲示板を設置するなどの取り組みにより、親子連れをはじめとする幅広い世代の交流の場としての機能を充実し、賑わいの創出を図る。
(4) 新規出店数増加による効果 ①地区空き家バンク連携事業 (まちづくり委員会、飯田市)	
事業実施期間	令和2年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	中心市街地の3地区が協働で空き家バンクを開設し、空き家・空き店舗情報を収集する体制づくりと情報発信を行うことにより、まちなかの居住環境整備を図る。

国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 令和2年7月～令和8年3月
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：4,604 人/日 最新値：1,862 人/日（目標未達成） 調査地点：知久町1丁目、銀座3丁目、伝馬町1丁目 進捗状況：調査当日が雨天だったことから目標値を約60%下回る結果となった。調査地点の知久町1丁目、銀座3丁目の周辺施設の橋南公民館、飯田市立動物園、ゆいきっず広場等はコロナ禍前と比較し施設利用者が増加していることから、まちなかを訪れる人は増加傾向にあると考えられる。
事業の今後について	各地区の空き家リストを引き続き作成し、活用が推進されるよう利活用可能な空き家を精査していく。橋北地区では、空き家に関する知識を深める学習会や、地区内配布用のリーフレットを作成し、空き家予防への意識啓発に取り組んでいるため、他地区でも情報発信や意識啓発を強化し、地区内の居住環境整備を推進する。
②空き家・空き店舗活用事業	
((まちづくり委員会、(株)飯田まちづくりカンパニー、飯田商工会議所、(一社)空き家人情プロジェクト、明治大学、飯田市))	
事業実施期間	令和2年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	地域、市民団体、各種団体が連携して空き家・空き店舗活用の実行組織・仕組みづくりを構築し、既存施設や空き家・空き店舗の調査、マッチング、開業支援を行うことで、歩いて買物・飲食や滞在ができるまちづくりに取り組むことにより、商業の活性化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 令和2年7月～令和8年3月
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：4,604 人/日 最新値：1,862 人/日（目標未達成） 調査地点：知久町1丁目、銀座3丁目、伝馬町1丁目 進捗状況：調査当日が雨天だったことから目標値を約60%下回る結果となった。調査地点の知久町1丁目、銀座3丁目の周辺施設の橋南公民館、飯田市立動物園、ゆいきっず広場等はコロナ禍前と比較し施設利用者が増加していることから、まちなかを訪れる人は増加傾向にあると考えられる。事業としてはまちづくりカンパニーでSNSや新聞広告等を利用した空きテナント情報を発信したこともあり2店舗の出店につながり、コロナ禍で増えた空きテナントも概ね新規出店により埋まってきている。
事業の今後について	利活用可能な空き家・空き店舗の情報を精査し地区外へ情報発信することで一定の効果が期待できるため、地区空き家バンク連携事業や市で取り組んでいる空き家バンク制度を有効に活用して事業推進を図る。

③まちなか起業推進事業

(飯田商工会議所、(一社) South-Heart、飯田市中心市街地活性化協会、飯田市)

事業実施期間	令和2年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	まちなかの経済的な衰退傾向に歯止めをかけるため、空き家・空き店舗活用や商業集積再生の担い手となる起業希望者育成及び開業支援を実施することにより、経済活力の向上を図る
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 令和2年7月～令和7年3月
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値： 4,604 人/日 最新値： 1,862 人/日 (目標未達成) 調査地点：知久町1丁目、銀座3丁目、伝馬町1丁目 進捗状況：調査当日が雨天だったことから目標値を約60%下回る結果となった。調査地点の知久町1丁目、銀座3丁目の周辺施設の橋南公民館、飯田市立動物園、ゆいぎっず広場等はコロナ禍と比較し施設利用者が増加していることから、まちなかを訪れる人は増加傾向にあると考えられる。事業としては、起業支援として市の空き店舗活用推進事業補助金を活用し新たに3店舗の出店につなげている。
事業の今後について	空き店舗を活用した市の起業支援制度の利用促進に向けて、事業者の相談窓口となる飯田商工会議所等へ制度周知を図る。また、制度活用により起業した事業者の出店支援となる機会を提供することで、空き店舗活用による起業の推進を図る。

(5) 文化・交流施設利用者数増加による効果

①春草通り活用事業

(まちづくり委員会、飯田市)

事業実施期間	令和2年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	仲ノ町から旧飯田測候所を「春草通り」と命名し、地域の歴史的資源を活かしたまちづくりの活性化を図る。 旧飯田測候所に付属する測風塔を、環境教育とコミュニティ活動の拠点として地域で活用できる展望台施設等へと改修することで付加価値を与え、ソフト事業との相乗的効果を図ることにより、まちなかの賑わいを創出する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値： 5,956 人/日 最新値： 2,736 人/日 (目標未達成) 調査地点：りんご並木、知久町1丁目、銀座3丁目、伝馬町1丁目 進捗状況：調査当日が雨天だったことから目標値を約54%下回る結果となった。周辺施設の橋北公民館や旧飯田測候所の利用者数は

	コロナ禍前の水準まで回復していないが、沿線の空き家を改修し市民が集える居場所づくりの提案事業や旧飯田測候所でのイルミネーション事業、春草生誕 150 周年事業として秋の茶会等の取り組みにより賑わい創出を図っている。また、旧飯田測候所は地域との協議を重ね、令和 7 年度からの指定管理制度導入を決定し施設の有効活用を計画している。
事業の今後について	民間事業者のノウハウを活かした旧飯田測候所の指定管理者制度の運営により、地域と連携した施設の有効活用に加えて、春草通りを活かした地域の取り組みや、沿線の空き家を活用した居場所づくり事業、風情ある春草通りを活用するための学習会等による空間価値の意識向上に取り組むことで目標の達成を目指す。
②丘のまち情報交流サロン事業 (飯田市)	
事業実施期間	令和 2 年度～令和 7 年度 【実施中】
事業概要	中心市街地の情報提供やコミュニティ活動の拠点として、本市の施設を活用した市民交流サロンの検討と整備を実施し、官民連携の事業推進と市民活動の支援を行うことにより、さらなる丘のまちの魅力向上を図る
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 令和 2 年 7 月～令和 8 年 3 月
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値： 5,956 人/日 最新値： 2,736 人/日（目標未達成） 調査地点：りんご並木、知久町 1 丁目、銀座 3 丁目、伝馬町 1 丁目 進捗状況：調査当日が雨天だったことから目標値を約 54% 下回る結果となった。文化交流施設利用者数は基準値対比で約 9% 増加し、目標値対比も約 4% 増加していることから、まちなかを訪れる人は増加傾向にあると考えられる。
事業の今後について	丘のまち情報交流サロンは当初の予定を変更し、情報提供機能を観光案内所及びまちなかインフォメーションセンターへ、交流機能をゆいさっず広場及びムトスぶらざへ機能分散し設置している。また、令和 4 年 5 月にトップヒルズ本町 1 階に商業施設のなみきマーケットが開店し、さらに、店内には交流スペースも設置されていることから、周辺施設含めてまちなか居住者や来訪者に対する新たな交流の場として利用いただけるよう、さらに連携を深め目標達成を目指す。
③ライフスタイルの低炭素化事業 (まちづくり委員会、おひさま進歩エネルギー㈱、飯田市)	
事業実施期間	令和 2 年度～令和 7 年度 【実施中】
事業概要	中心市街地にあるエコハウス、旧飯田測候所を拠点に、エコライフに関するイベントや環境教育等の省エネルギーを目指したライフ

	スタイルの普及・啓発活動を実施することにより、快適なまちなか居住の推進を図る
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 令和2年7月～令和8年3月
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値： 5,956 人/日 最新値： 2,736 人/日（目標未達成） 調査地点：りんご並木、知久町1丁目、銀座3丁目、伝馬町1丁目 進捗状況：調査当日が雨天だったことから目標値を約 54%下回る結果となった。文化交流施設利用者数は基準値対比で約9%増加し、目標値対比も約4%増加していることから、まちなかを訪れる人は増加傾向にあると考えられる。各種事業の際にエコハウスを活用し、エコライフに関するイベントや環境教育等の普及・啓発活動に取り組んだことで、前年度対比で約 33%増加、基準値対比でも約 24%の増加につながっている。
事業の今後について	エコハウス単独事業での集客は難しいことから、エコハウスで開催する講座等の充実を図りながら、沿線で取り組んでいる事業や周辺施設と連携した取り組みを実施することにより、事業の推進及び施設利用者の増加を図る。

④丘のまち回遊促進事業

（まちづくり委員会、NPO いいだ応援ネットイデア、飯田まちなか回遊促進研究会
環境文化教育機構(株)、飯田市）

事業実施期間	令和2年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	来街者の核施設となる飯田市立動物園を軸に、りんご並木、桜並木、春草通りに点在する個店や飯田市美術博物館、川本喜八郎人形美術館、飯田市立中央図書館等の施設が連携し、まちなか回遊を生み出すスタンプラリー事業の展開により、中心市街と全体の商業活性への効果波及を目指す。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 令和2年7月～令和8年3月
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値： 5,956 人/日 最新値： 2,736 人/日（目標未達成） 調査地点：りんご並木、知久町1丁目、銀座3丁目、伝馬町1丁目 進捗状況：調査当日が雨天だったことから目標値を約 54%下回る結果となった。文化交流施設利用者数は基準値対比で約9%増加し、目標値対比も約4%増加していることから、まちなかを訪れる人は増加傾向にあると考えられる。事業として春休みに取り組んでいる「丘の上さんぽラリー」は、加盟店の追加や事業内容の見直し、参加店舗で扱う商品の景品化等により、過去最高の応募数を得ることができた。

事業の今後について	中心市街地の店舗を知ってもらうことを目的に開始した丘の上さんぽラリーは、事業も定着化し参加者も増加してきているため、今後も店舗を訪問し楽しんで回遊できる要素を充実させることに加えて、周辺施設との連携をさらに深め事業の強化を図る。
⑤丘のまちミュージアム活用事業 (まちづくり委員会、飯田市)	
事業実施期間	平成 26 年度～令和 7 年度 【実施中】
事業概要	飯田市美術博物館、まちづくり委員会、地域商店街等が連携し、飯田市美術博物館、川本喜八郎人形美術館、飯田市立中央図書館、歴史文化遺産、文化芸能、町並み、景観のすべてを地域ミュージアムと捉え、それぞれが関連するテーマを題材とする特別展示等を企画し、知的交流拠点となるまちなかを創出し、来訪者の回遊推進を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 令和 2 年 7 月～令和 8 年 3 月
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値： 5,956 人/日 最新値： 2,736 人/日（目標未達成） 調査地点：りんご並木、知久町 1 丁目、銀座 3 丁目、伝馬町 1 丁目 進捗状況：調査当日が雨天だったことから目標値を約 54% 下回る結果となった。文化交流施設利用者数は基準値対比で約 9% 増加し、目標値対比も約 4% 増加していることから、まちなかを訪れる人は増加傾向にあると考えられる。施設利用者数は基準値対比で中央図書館が約 25% の増加、飯田市美術博物館も前年対比 22% の増加となり目標達成に向け寄与している。
事業の今後について	各施設独自の取り組みにより、概ね基準値を上回る利用者数につながってきている。一方で、川本喜八郎人形美術館の施設利用者数は、基準値対比で約 35% 減少している。市外からの入館者が多く、ツアー等の団体客がコロナ禍以降回復に至っていないことも理由として挙げられるが、周辺施設を結ぶ取り組み等により、市内の施設利用者の拡充を図ることで目標達成を目指す。
⑥ソサイエティ 5.0 社会を見据えたデジタル技術活用まちづくり事業 (丘メン実行委員会、飯田市)	
事業実施期間	令和 2 年度～令和 7 年度 【実施中】
事業概要	次世代デジタル技術を活用し、中心市街地の名所を情報発信するとともに、回遊につながる仕組みをつくることで、関係人口拡大や地域のデジタル産業の振興を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 令和 2 年 7 月～令和 8 年 3 月
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値： 5,956 人/日 最新値： 2,736 人/日（目標未達成） 調査地点：りんご並木、知久町 1 丁目、銀座 3 丁目、伝馬町 1 丁目

	進捗状況：調査当日が雨天だったことから目標値を約 54% 下回る結果となった。文化交流施設利用者数は基準値対比で約 9% 増加し、目標値対比も約 4% 増加していることから、まちなかを訪れる人は増加傾向にあると考えられる。事業としては企業協力の基、地元高校生と共同で GPS 機能を活用したまちなかの人流データ調査や、市の観光資源の一つである桜や焼肉店をスマホで紹介、案内できるコンテンツを作成し情報発信に取り組んだ。
事業の今後について	次世代デジタル技術を楽しんでもらうことができるコンテンツ作成に取り組むことに加えて、課題解決に向けた活用方法にも取り組むことで目標達成を目指す。

●目標達成の見通し及び今後の対策

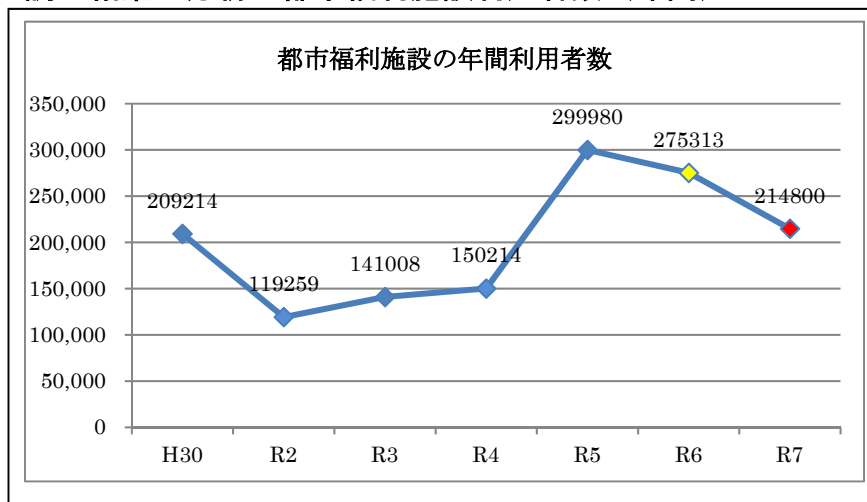
調査当日が雨天ということもあり「歩行者・自転車通行量」の全ての主要事業が目標未達成となっている。一方で都市福利施設と文化交流施設の利用者数は、基準値及び目標値共に上回っていることから事業効果としての発現はあり、中心市街地へ訪れる人は増加していると考えられる。また、令和 5 年度から関係者と協議を重ね、りんご並木を「憩い集えるステージ」とするための社会実験を令和 6 年度実施した。主な実験内容としては、車両を規制し道路をオープンテラスにする空間づくりに取り組み、飯田動物園来園者の誘導にも取り組んだが、動物園目的で来ている人を誘導することは困難であったことから、来街者のニーズに沿った目的地づくりが必要との結論となり、引き続き事業展開を検討することとなった。今後は、特定の施設目的で訪れている利用者が街中へ誘導される仕掛けや魅力づくりを関係者間で検討し、ウォーカブルなまちづくりを推進し歩行者等の通行量増加を目指す。

◆丘のまちの居場所・交流空間づくり

目標指標：都市福利施設利用者数（年間）

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 109～P. 111 参照

●調査結果と分析：都市福利施設利用者数（年間）

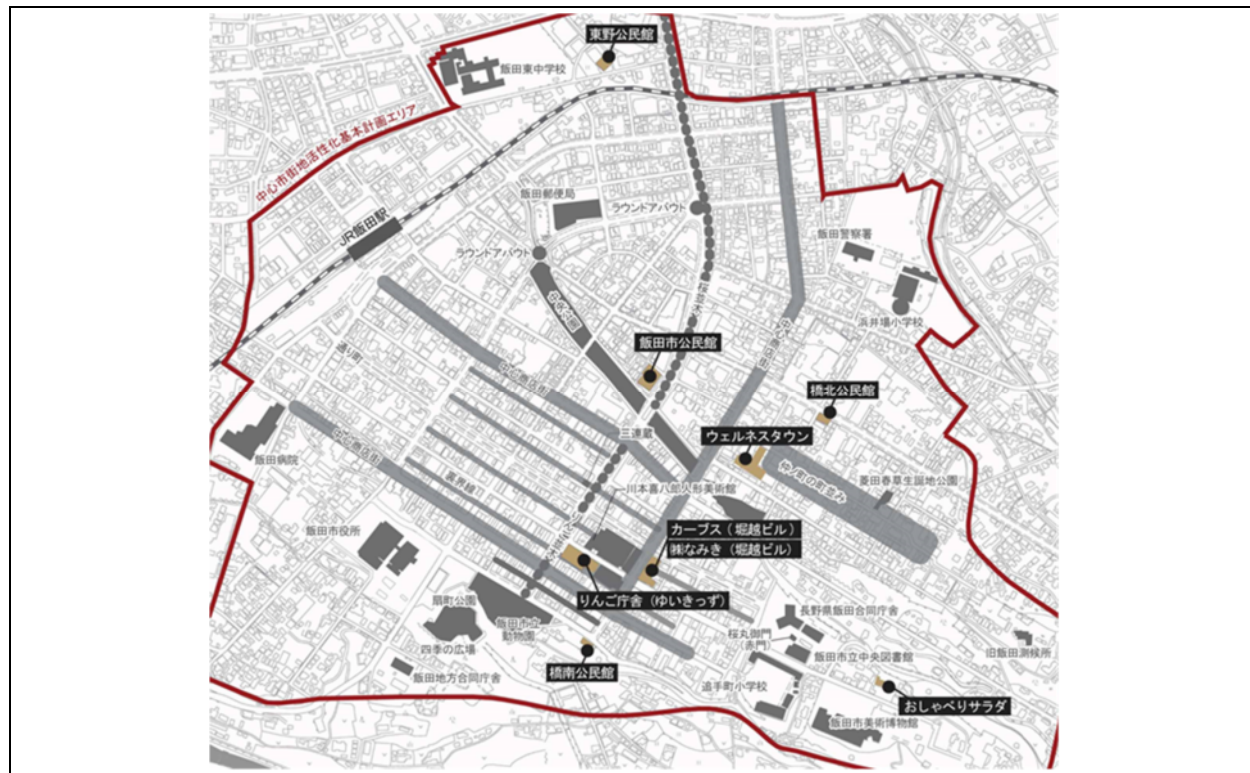


年	(単位：人/年)
H30	209,214 (基準値)
R2	119,259
R3	141,008
R4	150,214
R5	299,980
R6	275,313
R7	214,800 (目標値)

※調査方法：各施設担当者より聞き取り

※調査月：令和 7 年 4 月（令和 6 年度末集計）

※「おしゃべりサラダ」は、平成 30 年度の時点で、計画エリア内で事業を実施していないため、基準値は設けていない。



	平成 30 年度 (計画前年度)	令和 2 年度 (1 年目)	令和 3 年度 (2 年目)	令和 4 年度 (3 年目)	令和 5 年度 (4 年目)	令和 6 年度 (5 年目)	令和 7 年度 (6 年目)
カーブス	55,261	41,014	47,828	47,386	47,018	46,392	
(株) なみき ※令和 4 年度より掘端ディ	4,843	3,272	2,255	683	1,590	-	
ウェルスタク	1,900	2,450	880	628	576	1,673	
ゆいきっず	9,862	13,532	11,606	15,244	22,196	20,079	
飯田市公民館	73,687	29,654	46,598	44,236	164,944	149,694	
橋北公民館	21,094	9,842	11,164	13,210	14,854	14,906	
橋南公民館	8,825	4,703	6,307	12,581	18,873	21,112	
東野公民館	26,599	14,792	14,410	16,246	29,929	21,457	
合計	202,071	119,259	141,008	150,214	299,980	275,313	

〈分析内容〉

「都市福利施設利用者数」は、基準値対比で約 36%増加し目標値対比でも約 28%上回っている。近年の利用者数増加の大きな要因は、コロナ禍で休館及び利用制限を設けた公共施設が通常利用に戻ったことによるものである。また、基準値及び目標値を上回っている大きな要因は飯田市公民館の施設移転である。旧飯田市公民館は施設老朽化のため、前述の旧ピアゴ他駅周辺低・未利用地活用整備事業により、令和4年5月に駅前の大型商業施設を改修し移転した。改修の際は、以前より需要が高かった「幅広い世代が集いやすい交流拠点づくり」を実現するため、貸館としての公民館機能だけでなく、大規模なフリースペースも改修と併せて整備した結果、基準値対比で 103%の利用者数増加につながっている。他にも、トップヒルズ本町2階のゆいきっず広場では、体を動かして楽しむ遊具を設置するなど、親子の居場所づくりとしての取り組みを進めていることもあり、施設利用者は基準値対比で約 100%増加につながっている。また、同建物内の橋南公民館利用者も基準値対比で約 140%増加していることから、幅広い世代が交流する地域の拠り所としての効果が発現した結果と考えられる。一方で民間の福祉施設では(株)なみきがデイサービス事業を行っていたが、施設規模に見合った介護人材の確保が困難だったことに加えて、コロナ禍で利用者数が減少したことにより令和3年12月に事業閉鎖となった。その後、別の事業者が令和4年6月堀端デイとしてデイサービス事業を開始したが、施設規模に見合う運営が難しかったことから、令和6年2月に閉業となった。他にも、ウェルネスタウン内にあるフィットネスクラブ丘の上はコロナ禍により設けた利用制限を当面解除する予定がないため、福祉サービス機能の縮小に伴う利用者数減少が見られる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

(1) 健康福祉支援による効果

①健康福祉拠点活用事業

((社医) 栗山会、カーブス、(株)なみき)

事業実施期間	平成26年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	高齢化が進む中心市街地において、市民の健康寿命延伸のため、銀座堀端ビル等を拠点として、地域に居住する高齢者の生活支援施策、地域住民の健康支援事業、地域住民の健康・福祉データバンク機能、子育て支援のため整備した拠点を活用することで、まちなか居住者の健康増進と交流の機会の増加を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：施設利用者数：65,324 人/年 最新値：施設利用者数：48,065 人/年（目標未達成） 調査地点：カーブス、(株)なみき、ウェルネスタウン 進捗状況：目標値を約 26%下回る結果となった。(株)なみきのデイサービス事業を引き継ぎ、令和4年度に堀端デイが規模を縮小し事業を開始したが令和6年2月に移転により閉鎖した。また、ウェ

	ルネスタウンはコロナにより利用者制限を設けた運営方法に見直し、現在も縮小した運営を継続している。カーブスもコロナ禍で利用者減少後、回復までには至っていない。。
事業の今後について	ウェルネスタウン内にあるフィットネスクラブ丘の上はコロナにより設けた利用制限を当面解除する予定がなく、デイサービス事業も閉鎖しているため、新たな福祉機能の事業を誘致する等して、目標達成を目指す。

(2) 子育て支援による効果

①子育て世代包括支援事業

(飯田市)

事業実施期間	令和2年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	中心市街地において、子育て世代にとって住みやすい環境づくりが求められており、子育て支援や親子の居場所づくりを行うことにより、来街者の利便性向上や居住人口の増大を図る
国の支援措置名及び支援期間	子ども家庭応援センター事業 令和2年度～令和7年度
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：施設利用者数：10,942人/年 最新値：施設利用者数：20,079人/年（目標達成） 調査地点：ゆいきっず 進捗状況：目標値を約83%上回る結果となった。トップヒルズ本町2階では、本事業として実施しているゆいきっず広場を活用しつつ、体を動かして楽しむ遊具を設置するなど、親子の居場所づくりとしての取り組みを進めていることもあり、施設利用者は基準値対比で約100%増加につながっていることから、子育て支援の需要への対応、親子の居場所づくりとしての効果は発現していると考えられる。
事業の今後について	令和6年4月から新設した飯田市こども課をトップヒルズ本町2階に配して、こども相談・子育て相談・発達支援の強化により子ども家庭総合支援拠点機能を充実するとともに、こども・若者・親子の居場所づくりを推進する。

(3) 多世代交流による効果

①多世代交流拠点事業

(まちづくり委員会、NPO法人おしゃべりサラダ、飯田市)

事業実施期間	令和2年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	子育て世代・高齢者等の支援とイベント等の情報交流の場と機会づくりを通じて、誰もが気軽に集える第3の居場所づくりを行い、まちなかの賑わい創出を図る。
国の支援措置名	中心市街地活性化ソフト事業

及び支援期間	令和2年7月～令和8年3月
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：施設利用者数：131,405 人/年 最新値：施設利用者数：207,169 人/年（目標達成） 調査地点：飯田市公民館、橋北公民館、橋南公民館、東野公民館、NPO 法人おしゃべりサラダ 進捗状況：目標値を約 58%上回る結果となった。増加の大きな要因は飯田市公民館で、年間約 15 万人、基準値対比で約 103%増加の施設利用につながっている。これは整備前から需要の高かった「幅広い世代が集いやすい交流拠点の整備」として、大規模なフリースペースを設置したことが大きな要因と考えられる。
事業の今後について	事業は順調に進んでいるため、公民館での各講座やフリースペースの有効活用により第3の居場所づくりをさらに推進していく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

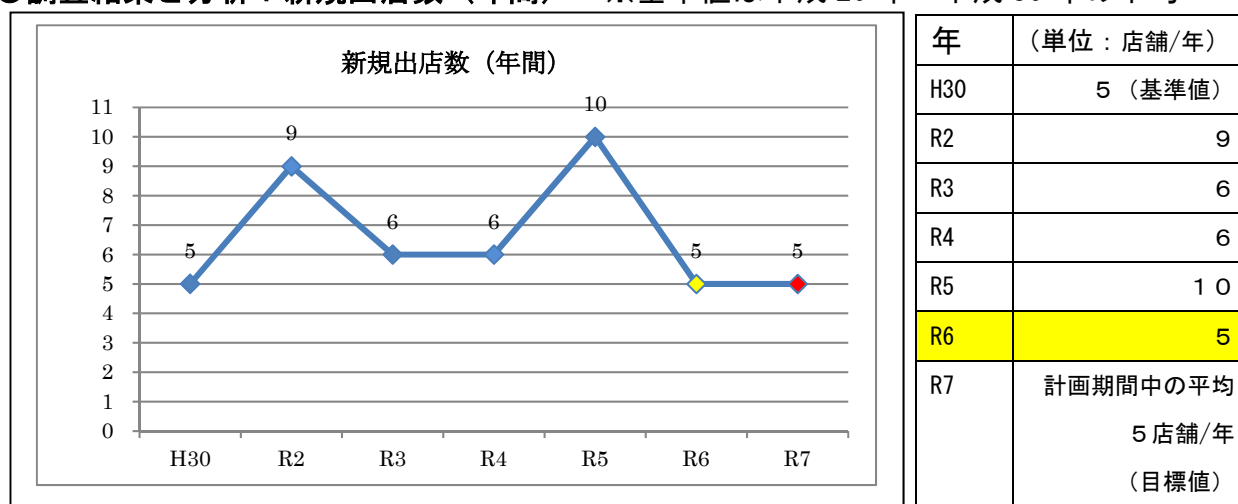
「都市福利施設利用者数」は、主要3事業の内2事業が目標を達成した。子育て支援及び多世代交流による効果は、ゆいきっず広場の事業拡充や飯田市公民館、橋南公民館の改修・移転により大きな効果が発現していることから、引き続き第3の居場所づくりとして施設の周知・運営を推進していく。民間福祉事業の閉鎖による空きテナントに対しては、新たな事業者の誘致やテナントの有効活用を検討し目標達成を目指す。

◆丘のまちの快適な暮らし創造

目標指標：新規出店数（年間）

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 109～P. 111 参照

●調査結果と分析：新規出店数（年間） ※基準値は平成20年～平成30年の平均



※調査方法：各事業担当者より聞き取り

※調査月：令和7年4月（令和6年度末集計）

※調査主体：飯田市

※調査対象：飯田市空家環境整備補助金、飯田市空家改修補助金、飯田市子育て世帯引越費用補助金、飯田市空き店舗活用推進事業補助金、まちづくりカンパニー

※上記のうち中心市街地活性化基本計画のエリアのみ対象

(単位：店舗/年)

	平成 30 年度 (計画前年度)	令和 2 年度 (1 年目)	令和 3 年度 (2 年目)	令和 4 年度 (3 年目)	令和 5 年度 (4 年目)	令和 6 年度 (5 年目)	令和 7 年度 (6 年目)
新規出店数	3	9	6	6	10	5	

〈分析内容〉

今年度の「新規出店数」は5件（店舗5件、民家0件）であった。基準値対比で2店舗増加し、計画期間中の平均値は令和6年度現在で7.2店舗/年の出店につながっていることから目標値も上回っている。新規出店数を把握することは難しいため、調査対象を市支援策の各種補助金実績及びまちづくりカンパニー所有のテナント新規出店者を合算し算出している。まちなか起業推進事業は目標値2店舗/年に対して令和6年度現在で3.2店舗/年となっていることから、支援制度の拡充が事業効果につながっていると考えられる。地区空き家バンク連携事業と空き家・空き店舗活用事業は目標値3店舗/年に対して令和6年度現在で4店舗/年となっている。コロナ禍の影響により空きテナントが増加したが、収束により新規契約数の増加につながっていることが要因と考えられる。一方で、物価高や光熱水費等の経常経費の増加等による新規出店へのマイナス材料が今後も見込まれる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

(1) 新規出店数増加による効果

①地区空き家バンク連携事業

(まちづくり委員会、飯田市)

事業実施期間	令和2年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	中心市街地の3地区が協働で空き家バンクを開設し、空き家・空き店舗情報を収集する体制づくりと情報発信を行うことにより、まちなかの居住環境整備を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 令和2年7月～令和8年3月
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：新規出店数：3店舗/年 最新値：新規出店数：2店舗/年（目標未達成） ※空き家・空き店舗活用事業含む 調査地点：中心市街地活性化基本計画エリア 進捗状況：目標値を1件下回る結果となった。数値は制度を活用した新規出店数のため2件に留まっているが、現状は空き家・空き店舗に対する相談件数や全市対象の空き家バンク制度への登録件数は年々増加傾向にあることから、空き家・空き店舗に対する需要は高まっていると考えられる。
事業の今後について	「地区空き家バンク連携事業」としては、全市対象の空き家バンク制度が開設されているため有効的に活用し、中心市街地限定のバン

	ク制度の必要性や情報収集・発信についてを、まちづくり委員会とともに検討していく。
②空き家・空き店舗活用事業 (まちづくり委員会、(株)飯田まちづくりカンパニー、飯田商工会議所、(一社)空き家 人情プロジェクト、明治大学、飯田市)	
事業実施期間	令和２年度～令和７年度 【実施中】
事業概要	地域、市民団体、各種団体が連携して空き家・空き店舗活用の実行組織・仕組みづくりを構築し、既存施設や空き家・空き店舗の調査、マッチング、開業支援を行うことで、歩いて買物・飲食や滞在ができるまちづくりに取り組むことにより、商業の活性化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 令和２年７月～令和８年３月
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：新規出店数：３店舗/年 最新値：新規出店数：２店舗/年（目標未達成） 調査地点：中心市街地活性化基本計画エリア 進捗状況：目標値を１件下回る結果となった。数値は制度を活用した新規出店数のため２件に留まっているが、現状は空き家・空き店舗に対する相談件数や全市対象の空き家バンク制度への登録件数は年々増加傾向にあることから、空き家・空き店舗に対する需要は高まっていると考えられる。
事業の今後について	制度周知や店舗誘致を更に強化することで事業推進を図るとともに、空き店舗等の新しい活用方法を引き続き検討していく。
(２) 来街者の回遊性増加による効果 ①まちなか起業推進事業 (飯田商工会議所、(一社) South-Heart、飯田市中心市街地活性化協会、飯田市)	
事業実施期間	令和２年度～令和７年度 【実施中】
事業概要	まちなかの経済的な衰退傾向に歯止めをかけるため、空き家・空き店舗活用や商業集積再生の担い手となる起業希望者育成及び開業支援を実施することにより、経済活力の向上を図る
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 令和２年７月～令和７年３月
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：新規出店数：２店舗/年 最新値：新規出店数：３店舗/年（目標達成） 調査地点：中心市街地活性化基本計画エリア 進捗状況：目標値を上回る成果を上げることができた。昨年度より新規出店者への賃借料補助制度を拡充したこともあり、空き店舗を活用した起業相談件数も増加傾向にある。
事業の今後について	空き店舗を活用した市の起業支援制度の利用促進に向けて、事業者の相談窓口となる飯田商工会議所等へ制度周知を図る。また、制

度活用により起業した事業者の出店支援となる機会を提供することで、空き店舗活用による起業の推進を図る。

●目標達成の見通し及び今後の対策

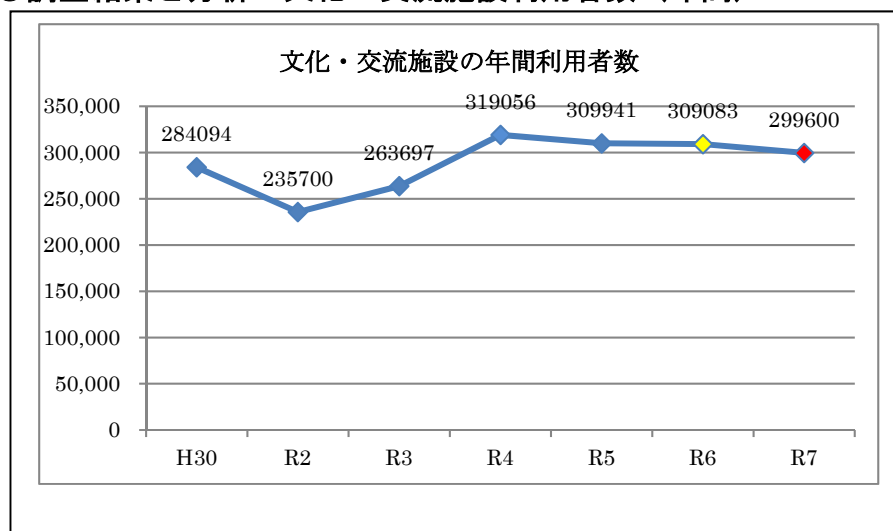
「新規出店数」は、コロナ禍からの回復の動きや支援制度拡充により、目標値である計画期間中の平均値5店舗/年を上回り、令和6年度現在 7.2 店舗/年の出店につながっている。特に近年は事業者の出店数が多く空きテナントも埋まってきている状況である。また、支援制度に関する事業者からの問い合わせも年々増加している。一方で民家としての空き家利用は進んでいないため、支援制度の周知及びまちなか居住の魅力発信に取り組む必要がある。また、今後も想定される物価高や光熱水費等の経常経費の増加等による新規出店へのマイナス材料がどのように影響してくるか、見極めたうえで必要な対策を講じていく。

◆丘のまちの新たな価値創造

目標指標：文化・交流施設利用者数（年間）

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 109～P. 111 参照

●調査結果と分析：文化・交流施設利用者数（年間）



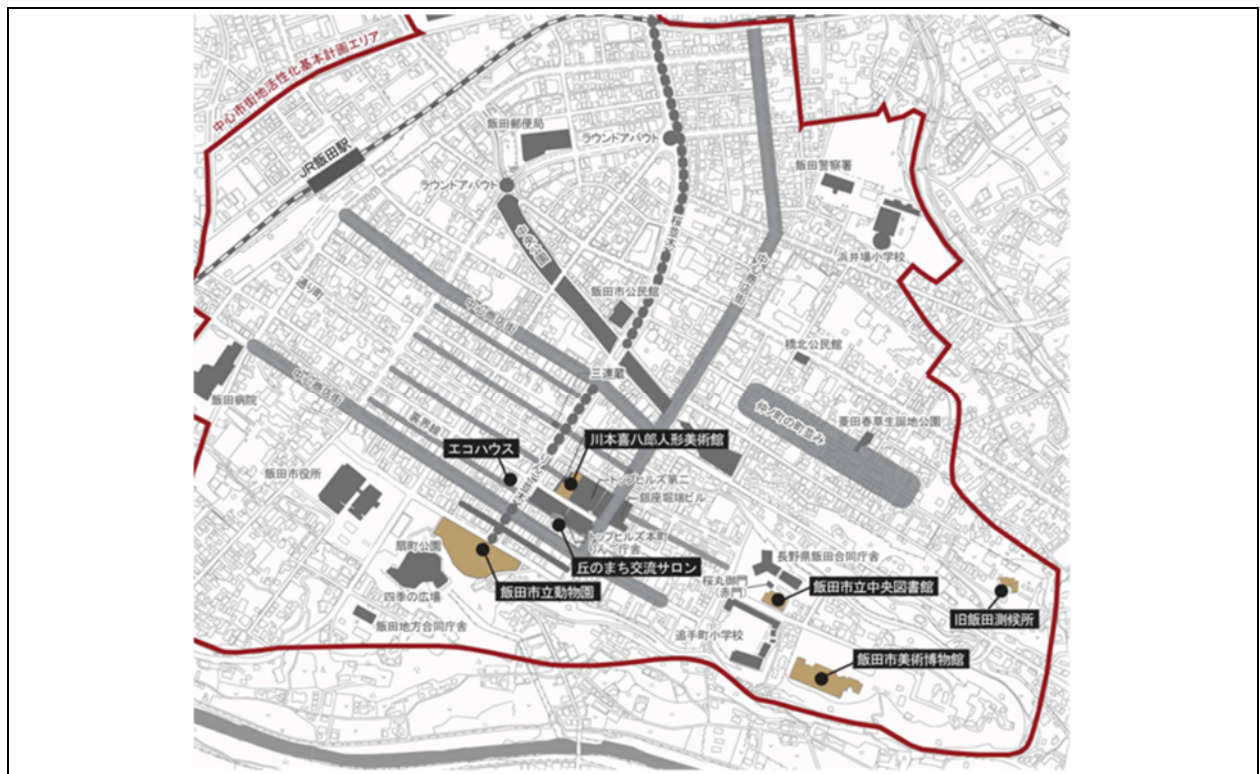
年	
H30	284,094 人/年 (基準値)
R2	235,700 人/年
R3	263,697 人/年
R4	319,056 人/年
R5	309,941 人/年
R6	309,083 人/年
R7	299,600 人/年 (目標値)

※調査方法：各施設担当者より聞き取り

※調査月：令和7年4月（令和6年度末集計）

※調査主体：飯田市

※調査対象：旧飯田測候所、丘のまち交流サロン、エコハウス、飯田市美術博物館、川本喜八郎人形美術館、飯田市立中央図書館、飯田市立動物園



(単位：人/年)

	平成 30 年 度 (計画前年度)	令和 2 年 度 (1 年目)	令和 3 年 度 (2 年目)	令和 4 年 度 (3 年目)	令和 5 年 度 (4 年目)	令和 6 年 度 (5 年目)	令和 7 年 度 (6 年目)
旧飯田測候所	1,312	1,254	1957	1,192	1,018	1,000	
丘のまち情報 交流サロン							
エコハウス	5,234	1,707	2,313	2,860	4,877	6,481	
飯田市 美術博物館	42,832	27,675	36,790	37,882	29,438	36,045	
川本喜八郎 人形美術館	12,256	4,482	4,514	7,431	7,607	7,955	
飯田市立 中央図書館	96,158	91,888	96,722	121,262	122,776	119,970	
飯田市立 動物園	126,302	108,694	121,401	148,429	144,225	137,632	
合計	284,094	235,700	263,697	319,056	309,941	309,083	

〈分析内容〉

「文化・交流施設利用者数」は基準値対比で約9%増加、目標値対比では約4%上回っている。また対象施設の内、旧飯田測候所及び川本喜八郎人形美術館を除く施設で目標値を上回る利用数となっている。特にエコハウスでは、イベントや環境教育等の普及・啓発活動に取り組んだことで、前年度対比で約33%増加、基準値対比でも約24%の増加につながっている。他施設についてもコロナ禍からの回復が一時収まり、前年度の利用者数を若干下回る施設もあるが、基準値対比では飯田市立中央図書館と飯田市立動物園が大きく上回っている。中央図書館では周辺飲食店と連携した出張図書館、動物園ではナイトZOO等の工夫を凝らした新たな取り組みにより利用者数増加につながっていると考えられる。一方で、旧飯田測候所は、これまで利用されてきた測候に関する計器等の展示や貸館として施設を利活用してきたが、利用者の固定化もあり利用者数は目標値に達していない。そのため、利活用推進に向けて地域との協議を重ね、令和7年度からの指定管理制度導入を決定し施設の有効活用を計画している。また、川本喜八郎人形美術館は基準値を大きく下回っている。これは、主な利用者である団体観光旅行者がコロナ前までの回復に至っていないことが要因と考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

(1) 東西軸強化による回遊性増加に伴う効果

①春草通り活用事業

(まちづくり委員会、飯田市)

事業実施期間	令和2年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	仲ノ町から旧飯田測候所を「春草通り」と命名し、地域の歴史的資源を活かしたまちづくりの活性化を図る。 旧飯田測候所に付属する測風塔を、環境教育とコミュニティ活動の拠点として地域で活用できる展望台施設等へと改修することで付加価値を与え、ソフト事業との相乗的效果を図ることにより、まちなかの賑わいを創出する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：施設利用者数：1,400人/年 最新値：施設利用者数：1,000人/年（目標未達成） 調査地点：旧飯田測候所 進捗状況：目標値を約29%下回る結果となった。沿線の空き家を改修し市民が集える居場所づくりの提案事業や旧飯田測候所でのイルミネーション事業、春草生誕150周年事業として秋の茶会等の取り組みにより賑わい創出を図っている。また、旧飯田測候所は地域との協議を重ね、令和7年度からの指定管理制度導入を決定し施設の有効活用を計画している。
事業の今後について	民間事業者のノウハウを活かした旧飯田測候所の指定管理者制度の運営により、地域と連携した施設の有効活用に加えて、春草通り

	を活かした地域の取り組みや、沿線の空き家を活用した居場所づくり事業、風情ある春草通りを活用するための学習会等による空間価値の意識向上に取り組むことで目標の達成を目指す。
(2) 第3の居場所創出による効果	
①丘のまち情報交流サロン事業 (飯田市)	
事業実施期間	令和2年度～令和7年度 【未実施】
事業概要	中心市街地の情報提供やコミュニティ活動の拠点として、本市の施設を活用した市民交流サロンの検討と整備を実施し、官民連携の事業推進と市民活動の支援を行うことにより、さらなる丘のまちの魅力向上を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 令和2年7月～令和8年3月
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：施設利用者数：1,230人/年 最新値：施設利用者数：－人/年(目標未達成) 調査地点：丘のまち情報交流サロン 進捗状況：丘のまち情報交流サロンは当初の予定を変更し、情報提供機能を観光案内所及びまちなかインフォメーションセンターへ、交流機能をムトスぷらざやゆいきっず広場へ機能分散し設置している。
事業の今後について	令和4年5月にムトスぷらざが開設され、公民館事業だけでなく2・3階のフリースペースを活用しコミュニティ活動も行われている。また、令和4年5月にトップヒルズ本町1階に商業施設のなみきマーケットが開店し、さらに、店内には交流スペースも設置されていることから、ゆいきっず広場等の周辺施設含めてまちなか居住者や来訪者に対する新たな交流の場として利用いただけるよう、さらに連携を深め事業に取り組んでいく。
②ライフスタイルの低炭素化事業 (まちづくり委員会、おひさま進歩エネルギー(株)、飯田市)	
事業実施期間	令和2年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	中心市街地にあるエコハウス、旧飯田測候所を拠点に、エコライフに関するイベントや環境教育等の省エネルギーを目指したライフスタイルの普及・啓発活動を実施することにより、快適なまちなか居住の推進を図る
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 令和2年7月～令和8年3月
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：施設利用者数：5,434人/年 最新値：施設利用者数：6,481人/年(目標達成) 調査地点：エコハウス

	進捗状況：目標値を約 19%上回る結果となった。事各種事業の際にエコハウスを活用し、エコライフに関するイベントや環境教育等の普及・啓発活動に取り組んだことで、前年度対比で約 33%増加、基準値対比でも約 24%の増加につながっている。
事業の今後について	エコハウス単独事業での集客は難しいことから、エコハウスで開催する講座等の充実を図りながら、沿線で行っている事業や周辺施設と連携した取り組みを実施することにより、事業の推進及び施設利用者の増加を図る。
(3) 来街者の回遊性増加による効果	
①丘のまち回遊促進事業	
(まちづくり委員会、NP0 いいだ応援ネットイデア、飯田まちなか回遊促進研究会 環境文化教育機構(株)、飯田市)	
事業実施期間	令和 2 年度～令和 7 年度 【実施中】
事業概要	来街者の核施設となる飯田市立動物園を軸に、りんご並木、桜並木、春草通りに点在する個店や飯田市美術館、川本喜八郎人形美術館、飯田市立中央図書館等の施設が連携し、まちなか回遊を生み出すスタンプラリー事業の展開により、中心市街と全体の商業活性へ効果が波及を目指す。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 令和 2 年 7 月～令和 8 年 3 月
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：施設利用者数：290,243 人/年 最新値：施設利用者数：301,602 人/年（目標達成） 調査地点：飯田市美術館、川本喜八郎人形美術館、飯田市立中央図書館、飯田市立動物園 進捗状況：目標値を約 4%上回る結果となった。飯田市立動物園と飯田市立中央図書館の利用者数が大きく寄与している。事業として春休みに取り組んでいる「丘の上さんぽラリー」は、加盟店の追加や事業内容の見直し、参加店舗で扱う商品の景品化等により、過去最高の応募数を得ることができ、中心市街地の賑わい創出に大きく寄与している。
事業の今後について	中心市街地の店舗を知ってもらうことを目的に開始した丘の上さんぽラリーは、事業も定着化し参加者も増加してきているため、今後も店舗を訪問し楽しんで回遊できる要素を充実させることに加えて、周辺施設との連携をさらに深め事業の強化を図る。
②丘のまちミュージアム活用事業	
(まちづくり委員会、飯田市)	
事業実施期間	平成 26 年度～令和 7 年度 【実施中】
事業概要	飯田市美術館、まちづくり委員会、地域商店街等が連携し、飯田市美術館、川本喜八郎人形美術館、飯田市立中央図書館、歴史文化遺産、文化芸能、町並み、景観のすべてを地域ミュージアム

	と捉え、それぞれが関連するテーマを題材とする特別展示等を企画し、知的交流拠点となるまちなかを創出し、来訪者の回遊推進を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 令和2年7月～令和8年3月
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：施設利用者数：290,243 人/年 最新値：施設利用者数：301,602 人/年（目標達成） 調査地点：飯田市美術館、川本喜八郎人形美術館、飯田市立中央図書館、飯田市立動物園 進捗状況：目標値を約4%上回る結果となった。飯田市立動物園と飯田市立中央図書館の利用者数が大きく寄与している。一方で、川本喜八郎人形美術館の施設利用者数は、基準値対比で約35%減少している。市外からの入館者が多く、ツアー等の団体客がコロナ禍以降回復に至っていない。
事業の今後について	多くの施設ではコロナ禍前を上回る利用者数につながっていることから、テーマを絞った特別展や施設同士を結び取り組みを強化することで目標達成を目指す。
③ソサイエティ5.0社会を見据えたデジタル技術活用まちづくり事業 (丘メン実行委員会、KDDI(株)、飯田市)	
事業実施期間	令和2年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	KDDI(株)の持つ次世代デジタル技術(5G)と中心市街地の歴史的・文化的資源を活用し、新たなまちの賑わいづくり事業を毎年1地区で開催することで、関係人口づくりと来街者の回遊促進を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 令和2年7月～令和8年3月
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：施設利用者数：290,243 人/年 最新値：施設利用者数：301,602 人/年（目標達成） 調査地点：飯田市美術館、川本喜八郎人形美術館、飯田市立中央図書館、飯田市立動物園 進捗状況：目標値を約4%上回る結果となった。飯田市立動物園と飯田市立中央図書館の利用者数が大きく寄与している。事業としては企業協力の基、地元高校生と共同でGPS機能を活用したまちなかの人流データ調査や、市の観光資源の一つである桜や焼肉店をスマホで紹介、案内できるコンテンツを作成し情報発信に取り組んだ。
事業の今後について	次世代デジタル技術を楽しんでもらうことができるコンテンツ作成に取り組むことに加えて、課題解決に向けた活用方法にも取り組むことで目標達成を目指す。

●目標達成の見通し及び今後の対策

「文化・交流施設利用者数」は、主要6事業の内3事業が目標を上回る結果となった。コロナ禍以降、人の流れは戻ってきているが、遠方からの団体観光客の回復までには至っていない。市外への情報発信を強化することに加えて、市民や個人観光者等への誘客促進を更に強化するとともに、施設同士の連携した事業を行うことで相乗効果を図りたい。